

## 議事録

**会議名** 令和7年度 第3回運営推進会議  
**開催日** 令和7年9月24日  
**開催時間** 9:30～10:30  
**開催場所** 2階 地域交流室  
**出席者**  
**運営推進委員** 木村 厚様 (榎原学区社会福祉協議会 会長)  
 棚橋 和代様 (榎原学区民生児童委員協議会 会長)  
 野原 孝彦様 (西京区社会福祉協議会 事務局長)  
**近隣事業所** 福田 啓子様 (グループホームラポールしらかば 所長)  
**法人代表** 坂本 健 (施設福祉推進室 介護保険事業部 担当部長)  
**職員** 柿迫 稔夫 (小規模多機能かたぎはら・グループホームかたぎはら施設長)  
 岩崎 由香里 (小規模多機能かたぎはら・グループホームかたぎはら副施設長)

### 議題

**利用状況報告** 利用状況報告 R7.8月末現在

#### 【小規模多機能かたぎはら】

7月実績 登録19名 実利用19名

介護度	申請中	支援2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5
男性	0名	0名	1名	1名	2名	0名	1名
女性	0名	1名	5名	7名	1名	0名	0名

利用回数

訪問 572回	通い:延べ 257回	泊り:延べ 35回
---------	------------	-----------

8月実績 登録 20名 実利用20名

介護度	申請中	支援2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5
男性	0名	0名	1名	1名	2名	0名	1名
女性	0名	1名	5名	7名	2名	1名	0名

利用回数

訪問:延べ 572回	通い:延べ 269回	泊り:延べ 39回
------------	------------	-----------

連泊者 0名 過少サービス(週4回未満の利用者) なし

#### 【グループホームかたぎはら】 R7.9月1日現在

入居者数 18名(男性1名・女性17名)

介護度	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
男性	0名	0名	1名	0名	0名	0名
女性	0名	2名	4名	7名	2名	2名

【小規模】

- ① 七夕飾り(地域交流)
- ② 七夕お焚き上げ
- ③ 祇園祭りドライブ
- ④ ホップ収穫祭
- ⑤ 誕生日会
- ⑥ 夕涼み会
- ⑦ 地藏盆(地域交流)

【GH】

- ① 実習生受入(株式会社ブレースメント)
- ② 七夕飾り(地域交流)
- ③ お茶会(家族来所)
- ④ 七夕お焚き上げ
- ⑤ 茶々の会参加(地域交流)
- ⑥ 公園体操
- ⑦ 祇園祭ドライブ
- ⑧ 公会堂すこやかサロン(地域交流)
- ⑨ こども達の発表会(地域交流)
- ⑩ スイカ割大会
- ⑪ 桂駐屯地花火大会
- ⑫ 納涼祭
- ⑬ 夕涼み会
- ⑭ 地藏盆(地域交流)

広報誌等で説明させていただいた。

## 事故報告

### 事故・ヒヤリ・苦情報告

#### 【小規模多機能かたぎはら】

	事故	ヒヤリ	苦情
7月	6件	9件	2件
8月	4件	7件	2件

#### 【事故】 負傷1件 食事関連3件 物損1件 服薬関連1件 車両関連1件 その他3件

7、8月度における事故報告件数は計10件でした。抜粋し報告いたします。  
最も多かった食事関連における事故報告で、内訳として提供の誤りが多くみられました。当然ながら利用者様には食事代をいただいておりますが、提供する品が誤っていることは、苦情報告に及ぶ可能性もありました。対策として調理担当は献立表の確認を徹底するのは大前提として、遂行表や冷蔵・冷凍庫内の食事の記載を分かりやすく実施することを徹底しています。  
その他、支援の誤りにおける事故報告は訪問ミスや自宅鍵の所在を忘れるといった家族様へのご心配をおかけしたケースです。どちらのケースにおいても職員間でのモニタリングや支援時間の伝達などが不十分であり、記録として残されていなかったことから状況の把握が曖昧であったことが挙げられます。改善策においてはパソコン上での記録だけではなく、職員間での口頭・ミーティング記録において書類として残すことを周知し、確実に目に留まるようにつとめています。

#### 【ヒヤリ】 物損・紛失10件 食事関連2件 入浴関連1件

7、8月度におけるヒヤリハット報告件数は計16件でした。抜粋し報告いたします。  
内訳で最も多かった物損・紛失のリスクですが、主に泊まり利用時において、利用者様の持ち物確認が不十分であったことが原因に挙げられます。また、来所される以前に発生した私物の損傷なのか当館利用中に出来てしまったものなのか、写真や記録として残されていなかったことから苦情報告にもつながる恐れもありました。また、送迎支援の際に持ち物が玄関の軒先や送迎車内に残されていたケースもあり、支援後に車中の確認と利用者様の手荷物が入っていることを確認してから次の業務にあたるよう周知しています。  
次いで多く報告されている食事関連につきましては、食事の提供漏れに繋がりがかけたケースと、補聴器を口にされそうになられたケースです。食事の提供漏れにつきましては準備の際に足りないことに気付き事故には繋がりませんでした。最近に食事関連に関する報告が増加傾向のため再周知を兼ねて報告させていただいています。補聴器を口にされそうになった異食のリスクにおきましては、普段よりティッシュや小さい物などを付近に設置せず支援させていただいていますが、職員体制や時間帯によってはマンツーマンでの対応は困難であり、こまめに咀嚼の有無や補聴器の装着をされているか確認させていただいています。また、誤食リスクのある補聴器について装着の必要性の有無についても職員間で協議する必要があると意見が挙がっています。

## 【苦情】 4件

7、8月度における苦情報告件数は計4件でした。

区分変更によって要介護度が変更になったことで実費が発生してしまったケースです。対策としてケアマネから家族様への詳細なご説明をおこない、限度額や単位数の増加などを把握してサービスが提供できるように入念な管理を徹底することにつとめています。

団地の敷地内における送迎車の速度超過についてのご指摘もいただいています。利用者様の近隣住民から速度を出して運転している車があると利用者様宅への報告があった。当該の送迎車がかたぎはらの車両であったかは不明ですが、当法人でも車両に関する事故なども多く聞かれると感じており、改めて交通ルールの遵守や見直しの機会として報告させていただいています。

当施設の入浴機会について他事業所のケアマネージャーよりご指摘をいただいています。8月より新規でご利用されていた利用者様の家族より、週3回の入浴希望がありました。当館内で検討が滞っており、利用者様のご希望に沿えない形となってしまいました。入浴機会の確保など、利用者様のニーズに柔軟に応えるのが小規模多機能の強みであるなか、職員体制や他利用者への公平性の協議が進まなかったことが原因です。改善策としてより一層の職員間での綿密なアセスメントを実施し、当施設での対応について適切な対応や柔軟な支援がおこなえるようつとめます。

最後は自宅への送り時において玄関の鍵が開けたままであったと指摘をいただいています。対応した職員に状況確認をおこなったあと、職員間でも改善策を協議しています。当館のことを信頼し自宅の鍵を管理させていただいていることを自覚し、施錠の確認においては送迎記録において確実に実施した記載を徹底することにつとめています。加えて、施錠を実施した際には必ずドアに手を触れて確実に閉まっていることを確認するよう周知しています。

### 【グループホームかたぎはら】

	事故	ヒヤリ	苦情
7月	27件	6件	0件
8月	15件	1件	0件

【事故】 内出血23件 転倒・転落10件 薬関連3件 負傷3件 物損3件

7、8月度における事故報告件数は計42件でした。抜粋し報告いたします。  
事故件数の約半数は内出血報告となっています。特に4名の入居者での内出血報告が多く挙がっている状況となっています。皮膚掻痒感による掻きむしりや、介護拒否行動、身体介助時の接触によるものなどそれぞれの要因が考えられます。介助方法の見直し、できやすい部位の保護など改善策を実施していますが、件数の減少には繋がっていない状況であり、ユニットにおいても改善策の見直し、検討と実施を継続している状況です。

転倒事故については、夜勤帯に居室内やトイレに行こうとされた際の転倒が5件発生しています。いずれも他者介助中や居室内での行動に気付くことができなかったことが要因としてあがっており、転倒リスクの高い入居者については巡視回数の増加、覚醒時のトイレ促し、入眠される様子がなければフロアで過ごすことを促すなどの対策を講じています。また、日中での転倒については、自立歩行をされている入居者の転倒が3件、歩行不安定であるが多動であり歩き回っておられる際にバランスを崩し、職員も付き添っていたが支えきれなかったケースなどがありました。自立歩行者については普段より歩行が安定しているが、障害物や床が濡れている等の要因によるものであった為、環境面の注意喚起を図っています。また、多動の入居者については職員が付き添う事で興奮される傾向がある為、後方から見守りを行うことで興奮を防ぎ、転倒リスクの低減を図っています。

薬関連については、服薬支援を行ったが後に錠剤が落ちていたケース、外出時の薬準備を失念していたケース、月1回服用する内服薬の服薬支援漏れのケースでした。錠剤が落ちていたケースでは服薬支援後は開口してもらい、服薬確認をしていましたが不十分であったため、服薬後にスワブにより口腔ケアを行うことで服薬確認の強化を行っています。服薬支援漏れについては、前日の服薬セット時より準備漏れがあった為、当日のその他の内服薬の袋に起床時薬がある旨を記載し、準備・支援漏れを防ぐよう対策しています。

打撲・負傷については、和室の入居者で立位のまま靴を履いてもらう支援をしていたところ、バランスを崩され壁にぶつかってしまったケースがあり、靴の着脱支援時は椅子に座ってもらってから支援を行うことを周知徹底しています。その他、爪切りの際に指を切ってしまったケース、足の爪がぐらついていたことから看護師による処置中に足を動かされたことで爪が剥がれてしまったケースでした。

#### 【ヒヤリ】 転倒リスク4件 誤食リスク1件 薬関連リスク1件 その他1件

7、8月度におけるヒヤリハット報告件数は計7件でした。抜粋し報告いたします。  
転倒リスクについては、歩行時の転倒リスクがある入居者が職員の気付かないうちにトイレまで移動されていたケース、座席に座ったまま右側に座っていた他入居者に手を伸ばされた事でバランスを崩して転落しそうになったケース、歩行時にパーテーションにかけていた絵を触ろうとされた際にパーテーションが動いたことでふらつかれたケースなどがあがっています。トイレまで移動されていたケースでは、職員がそれぞれ別業務を行っており、見守りが不十分の状況であった為、職員同士が声を掛け合うことで見守りの意識を高めるよう注意喚起を行っています。

異食リスクについては、雑誌を見ておられた際にページの切れ端を口に入れようとしていたケースです。以前にも異食事故があった入居者であり、直前にはお茶の提供も行っていたことから、食べ物に誤認された可能性もあった為、飲食時には飲食物以外は周囲に置かない事を改善策として実施しています。

薬関連リスクについては、服薬支援後に座席に錠剤が落ちていたが発見が早かったため、服薬をしていただいたケースです。事故報告であがったケースと同入居者であり、錠剤が飲みこみにくくなっていることも考えられ、内服薬の粉碎が可能かも確認していますが、粉碎不可の錠剤もあり、現状は錠剤のまま服用を継続しています。

#### 【苦情】0件

(ご意見・ご質問等)

・事故報告の検証は大事だが、生活している中では必ずあるもので、施設の利用者も同じようなことがあてはまらないだろうか。

→ ここで生活をして頂いている以上、出来るだけ事故は起こさないように安心して生活してもらいたいと思っています。事故をすべて無くすことは難しいが事故報告を検証することによって、予防する事ができる。そのために、事故が起これば、報告書を書き、職員で話し合う必要がある

・家族にはどれだけ今の状態を伝えるのか

→事故がおこればその都度説明の連絡をさせてもらっている。

## 委員会活動

### 身体拘束適正化委員会

#### ①前回の事例検討後の経過報告を行う

抗精神薬の影響により、一時的に生活機能の低下があったため、現在は服用を中止。少しずつ活気が戻ってきています。

#### ○食事面

介助は必要ですが、覚醒時間も増え食事量が増えています。

口を開ける動作、飲み込みの力も徐々に戻りつつあり、職員の声掛けに応じ、食事を食べようとする姿勢が見られるようになりました。

#### ○排泄面

立位・座位保持には介助が必要ですが、職員の声掛けに応じて排泄のタイミングが整えられています。

#### ○1日の生活

日中椅子に座って過ごす時間が増えてきました。呼びかけに応じ好きな歌の一節を口ずさんだり、言葉が出る場面もあり、本人らしさも垣間見えるようになりました。

(ご意見・ご質問等)

今後も継続して取り組み、次回にも経過報告することになった。

#### ②センサーマットについて

プライバシーの関係からセンサーマットの利用について検討している。次回の委員会で少し意見が頂けたらと思っている。

虐待防止委員会

前回の事例検討後の経過報告を行う

○接触行動について

抗精神薬の服用をやめてから、日中の覚醒も増えるとともに反射的な接触行動が再び見られるようになりました。力は弱く、職員が困るようなことはありません  
本人の安心感を考えながら、密着時の介助の対応を工夫しています。

その他

地域交流、内部研修等について別紙で説明させて頂いた(別紙参照)

- 1 ホップ収穫祭
- 2 内部研修:感染症・BCP
- 3 子どもたちの発表会
- 4 地域交流:夕涼み会
- 5 しおんカフェ
- 6 地域交流:かたぎはら地藏盆
- 7 内部研修:コンプライアンス・ハラスメント・メンタルヘルス

7年10月23日 14時～ 延期されていた避難訓練を実施予定

地域の方の参加があれば、1階利用者の避難をお手伝いしてもらう。

また、水消火器を使った訓練を一緒に行う。